

## 意見交換会報告書

委員会名	総務文教常任委員会
参加議員	<ul style="list-style-type: none"> <li>●総務文教常任委員会 委員長 小林訂史 副委員長 原田 大 委員 高橋 由信、今井敏博、武者 葉子、小林 克行</li> <li>●議会改革推進特別委員会 副委員長 小川 剛 委員 宇佐美 誠</li> <li>●安中市議会議長 佐藤 貴雄</li> </ul>
意見交換団体	安中市消防団、安中市女性防火クラブ
団体参加者	<ul style="list-style-type: none"> <li>●安中市消防団 団長 ほか 2 名</li> <li>●安中市女性防火クラブ 本部長 ほか2名</li> <li>●(オブザーバー参加)安中消防署 署長 ほか 3 名</li> </ul>
日 程	令和 7 年7月 16 日(水)14:00~16:00 場所: 安中消防署 2 階会議室
テーマ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・安中市消防団「団員確保について」</li> <li>・安中市女性防火クラブ「担い手不足について」</li> </ul>
概要	<p>1.安中市議会 議会改革の取り組みについて 議会改革推進特別委員会の小川剛副委員長より議会改革に取り組む背景やこれまでの議会改革の取り組みについて説明</p> <p>2.安中市消防団の活動について 安中市消防団の団長より安中市消防団の概要や活動報告の説明 課題:団員の確保、訓練・研修内容の充実化、団員の負担軽減</p> <p>3.安中市女性防火クラブの活動について 安中市女性防火クラブの本部長より安中市女性防火クラブの概要や活動報告の説明 課題:担い手不足、高齢化(特に山間部)、時間確保の難しさ、活動の休止化</p> <p>4.意見交換の抜粋 &lt;女性団員の状況について&gt;</p> <p>・安中市消防団は女性団員がいる分団はあるが、女性は後方支援が中心で男性の団員と一緒に活動している。このような活動をしている安中市消防団は異例。全国的に見ると女性だけの分団があり、県内の例を挙げると藤岡市、渋川市に女性分団がある。しかし女性分団は男性のみの分団とはすべて別行動をとっている。これらの例は、実質的に安中市女性防火クラブと同様の活動をしているので、女性防火クラブの存在意義がなくなる。</p> <p>・女性団員に加入してもらえるのは歓迎だが、古い詰所には女性トイレがない。懇親会を開催しても夫に迎えに来てもらい自宅のトイレを利用するケースもある。処遇等の問題は金銭で解決できるが、トイレ事情などは議論が必要である。新しい詰所にはトイレが男女別になっており、市には感謝している。</p>

<団員勧誘における地域の巻き込みについて>

- ・団員の確保には苦勞しているが、新しく分譲住宅ができて他地域から移住されると、地域の住民もわからない。団員の勧誘には、地元の区長の下にいる区長代理、その下の班長の方が地域のことをよく知っているので、区長代理、班長を巻き込むことが必要ではないか。
- ・女性防火クラブへの勧誘が大変だという区長代理からの声を受け、勧誘をやらなくてよいという区長もいるのも事実。
- ・従来は区長にお願いされれば女性防火クラブに入るしかないという雰囲気があったが今は違う。若い方を中心に助け合いの精神に欠けるところがある。家事や育児で手一杯という要因もある。葬儀も地域が主体となってやっていたが、現在は業者が運営を行うため地域の協力体制がない。コミュニケーションをとりたくてもこのような状況ではとれない。
- ・区長の中には、女性防火クラブの存在すら知らない方もいる。消防イベントに出ることがないため自分たちには関係ないという方もいる。水防訓練、秋季点検にも区長全員に案内を出してもらい、見てもらうようにしてもらいたい。

<団員定数について>

- ・安中市は面積が広いが、団員 540 人という定数が本当に必要なのかという議論もある。板鼻の例を挙げると、機能別消防団を募集したところ、50 代くらいの方が入ってくれている。機能別消防団が充実してくれば定員を減らしてもよいのではないか。
- ・団員数には定員条例が存在する。この条例を改正してもらえれば柔軟に対応できる。安中市消防団の定員充足率は全国的に見ても悪くない数字で、これは機能別消防団が貢献しているため。地域のどの消防団に入ってもよいことや定員を超えてもよい等、消防団に入りやすい状況を作るなどして条件緩和している。

<「ぐんま消防団応援の店」制度について>

- ・団員確保に向けた取り組みとして「ぐんま消防団応援の店」の割引制度があるが、実際に団員は使ったことがあるのか。どの店が使えるのかわからず、その都度調べなければならぬという団員が多いのではないか。これをもって勧誘するのは厳しいのではないか。
- ・女性防火クラブはこの割引制度は適用されない。
- ・お店を経営する立場から見ると、この割引制度は浸透していない。団員だからこの制度を利用したいといわれたことはない。わかりやすいチラシ、ポスターを貼る等の対策が必要。
- ・割引分の費用は現在お店が負担しているが、市の補助が必要ではないか。
- ・団員の活動参加状況に応じて、電子地域通貨ウメカでポイント付与する制度も検討できるのではないか。

<団員の負担軽減について>

- ・忙しいので全部の活動は出られないという声もある。実際にすべての会議に全員が

出ても意味が薄いこともある。一人当たりの負担を軽減することが必要ではないか。  
・人数がいらないとできないプログラムもあり、必要人員はどうしても集めなければならない。その場合分団毎に交代で人員を出し合うことも行っている。

<事業所へのインセンティブについて>

- ・地元の消防団に従業員が入ってもらえるインセンティブを検討できないか。
- ・事業所の従業員は事業所側の協力なくしては実際従業員の参加は難しい。
- ・事業所へのインセンティブの一案として、例えば法人税の減免措置や、入札参加時の加点に加える等も検討できるのではないか。
- ・献身的に地域への貢献活動をしていく団員に対し、団員個人の市民税減免等も目玉にしてもよいのではないか。
- ・全国的には役場役所の職員が団員をやっている。団員のサラリーマン化は7割から8割に上る。特に山間部では実際に市役所職員に入ってもらえないと団員確保はできない。

<安中市からの補助金について>

- ・安中市の補助金は女性防火クラブに対して支給されるため、幹部は自腹で金銭負担している。

<こども参加型イベント開催について>

- ・令和5年度には原市支部主体でこどもと一緒に女性防火クラブの体験活動ができる場をスマイルパークで開催したことがある。
- ・今年出初式を実施したが、このようなイベントは重要。レッド君に乗りたいということももいたし、こども用制服も人気があった。
- ・イベントでジェットシューターやこども用の防火服を活用するのも効果あり。
- ・多くの車両が勢ぞろいする水防訓練において育成会を巻き込みながら市民に開放して参加してもらう仕組みがあるとよいのではないか。
- ・水防訓練は、スーパー堤防ができる関係でイベントスペースを広くすることができない。イベントをやっても団員確保に直接つながるかというのは疑問。

市への提言  
または要望

1. 増加傾向にある女性団員のためのトイレを中心とした環境整備の充実
2. 「ぐんま消防団応援の店」の制度周知におけるのぼり旗設置や広報誌への掲載等の啓発促進
3. 消防団、女性防クラブの団員定数における総合的な見地からの弾力的な見直しの実施
4. 消防団、女性防火クラブを担当する防災係を危機管理課内に設置することによる機動性の向上(要望:令和8年4月~)
5. 市内事業所における消防団活動への積極的な取り組みに対する優遇策の検討